

百敷や古も軒端の

しのぶに心なほ余りある

昔なりけり

中一三

宮中の古い軒端に忍ぶ草を見るにつけても、いくら忍んでも  
忍び尽くせないのは昔の御代であるなあ。

(百人一首 百番 順徳院)